

しょうがくせい みな
小学生の皆さんへ

この数か月、色々な方から「家の中で過ごす時間が増えたので、料理や掃除、そして、日頃できなかったも

のの整理に力を入れている。」という話を聞きます。皆さんはいかがですか。これまでやりたくてもなかなか

できなかったことや、いいかげんになっていたことに時間を使うようにしている、ということはないでしょうか。

この機会に皆さんに見直してほしいのは、「家事(料理や洗濯、掃除など)」がいかに大切かということ

です。お手伝いをして、お家の方に喜んでいただけるのはいいことですが、それ以上に深い意味を持っていま

す。小林聖心では入学試験前の面接で、「どんなお手伝いをしていますか。」と必ず尋ねられますね。皆さん

んよくご存知でしょう。家庭の一員としての責任を果たしてほしいということはもちろんありますが、さらに、

「惜しみなく働く」という昔からの教えがある聖心の教育では、「お手伝いをする」ということに大切な意味

があると考えているからなのです。それは「動く身体」をつくるということ、そして、「動く身体」をつかさどる

「身体知」(身体で覚えた知恵)を育むということです。

スポーツで体を鍛えるのとはちがう意味で、家事は立派な身体活動です。スポーツのように決まった目標

において「身体を動かす」のではなく、周りの様子に気づいて「身体が自然に動く」ということを感じるこ

ができます。そして、実際にやりながら、身体で覚えていくことでしか身につかない知恵が、「家事」を通して

そだ
育っていくことになります。

おばやしせいしん
小林聖心ではたくさんの行事があり、その都度、「頭と心を使って惜しみなく働きなさい。」と言われます。

まさに学校行事には、この「家事」と似たような学びがあるのだと思います。聖心の教育方針に挙げられる、

たましい ちせい じっこうりよく
「魂」「知性」「実行力」。これら 3 つの力が、「家事」を

とお はぐ
通して育まれます。どうぞ皆さん、一生懸命お手伝いをして

くださいね。

